

# 東三河防災カレッジ

HIGASHI MIKAWA BOSAI COLLEGE

## ○ 概要・目的

日本は世界に稀に見る地震国です。

とくに 2011 年の東日本大震災のあと、日本各地で地震・火山活動が活発化しています。

2016 年 4 月 14 日と 16 日には、熊本で連続して大きな地震が発生しました。

東三河地域は、近い将来に発生する南海トラフ巨大地震によって、甚大な被害が予想されています。

そのため、企業・自治体等において、災害時に活躍できる防災の担い手の育成は、緊急の課題です。

豊橋技術科学大学 安全安心地域共創リサーチセンターでは、この講座を通じて、災害から「経営（事業）」、「建物（施設）」、「生命（生活）」を守る人材の育成を目指します。

受講期間 初年度10月～次年度3月（1年6ヶ月）

募集人数 5名

受講料 74,000円

応募資格 東三河地域の企業、自治体、自主防災組織等で防災に取り組んでいる方  
高等学校卒業程度の学歴を有している方  
自宅または職場でインターネットに接続できる方

## ○ 実施体制



○ 実施スケジュール

8～9月

広報活動、募集、応募者の選考（受講者の決定）

10月

開講式、受講開始

初年度

必修

公開講座形式 1回約2時間の授業を毎週開講

10～2月

防災基礎講座（授業）  
防災基礎講座（eラーニング）  
経営（事業）をまもる人材の育成講座  
建物（施設）をまもる人材の育成講座  
生命（生活）をまもる人材の育成講座

公開講座は各講座30名程度、BP受講者以外の方の受講も受け付ける

選択必修

大学院講義から2～4科目を履修

10～2月

鉄骨系構造設計論①②  
鉄筋コンクリート系構造設計論  
リスクマネジメント論  
水圏防災論  
環境経済分析論

必修  
随時指導

次年度

10～2月（初年度未履修科目の受講）

防災基礎講座（授業）  
防災基礎講座（eラーニング）  
経営（事業）をまもる人材の育成講座  
建物（施設）をまもる人材の育成講座  
生命（生活）をまもる人材の育成講座

公開講座は各講座30名程度、BP受講者以外の方の受講も受け付ける

4～8月

高度技術者論  
構造解析論①②  
耐震構造設計論①②  
社会基盤マネジメント論  
産業政策論

特別研究

3月 研究成果発表

資格認定／修了式：履修証明書・称号授与

穂のくに防災先導士（仮称）

東三河地域の防災力強化に資するネットワーク構築

(様式1)

職業実践力育成プログラム (B P) への申請について

平成29年10月3日

①学校名：	豊橋技術科学大学		②所在地：	愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1			
③課程名：	安全安心地域共創リサーチセンター 東三河防災カレッジ		④正規課程／履修 証明プログラム：	履修証明プログラム	⑤開設年月日：	平成30年 10月	
⑥責任者：	斉藤大樹 (安全安心地域共創リサーチ センター長)		⑦定員：	5名	⑧期間：	1年6ヶ月	
⑨申請する課程の 目的・概要：	本事業では、南海トラフ巨大地震等の大規模な地震の発生にともなう人的被害と経済的被害を最小限に抑えるため、三河湾沿岸の埋立地等に集積する企業の防災対策が促進されるよう、平時から防災対策に主体的に取り組み、発災時にも状況に応じた適切な判断と行動がとれる企業等における防災責任者を養成する。						
⑩4テーマへの該 当の有無	地方創生	⑪履修資格：	企業、自治体等において防災に従事する、高等学校卒業程度の学歴を有している人 (本学において、同等以上の学力があると認めた者を含む)				
⑫対象とする職業 の種類：	企業における防災担当者、自治体職員、自主防災組織員 等						
⑬身に付けること のできる能力：	(身に付けられる知識、技術、技能) BCPの作成・運用手法、建物被害軽減手法、自助・共助のた めの知恵や知識			(得られる能力) 事業復旧・継続のマネジメント能力			
⑭教育課程：	本プログラムは、公開講座形式の必修科目 (5科目)、大学院の講義を利用した選択必修科目 (14科目)、特別研究 (1科目) の計20科目で構成されている。 ・公開講座形式の必修科目では、それぞれ次のような能力を習得する。 「防災基礎講座」 (eラーニングによる講座含む) から自然災害の発生メカニズムに関する知識を習得する。 「経営 (事業) を守る人材の育成講座」からBCP作成・運用手法を習得する。 「建物 (施設) を守る人材の育成講座」から建物被害軽減手法を習得する。 「生命 (生活) を守る人材の育成講座」から災害から生き抜くための知恵や知識を習得する。 ・大学院の講義を利用した選択必修科目では、受講者の興味・関心や課題意識に対応した科目を2～4科目 (42～45時間分) 受講し、公開講座形式の必修科目で習得した内容についての専門性を伸ばす。 ・特別研究では、指導教員の下で設定課題に取り組み、課題解決能力を習得する。						
⑮修了要件 (修了 授業時数等)：	授業時間の合計124～127時間 (最大) を習得し、特別研究の成果発表を行い、審査に合格すること						
⑯修了時に付与され る学位・資格等：	「履修証明書」交付、「穂のくに防災先導士」称号 (仮称)						
⑰総授業時数：	124～127 時間	⑱要件該当授 業時数：	65	該当 要件	企業等 双方向 実務家 実地	⑲要件該当授業時数 ／総授業時数：	51.18%

⑳成績評価の方法：	必修科目については、レポートを提出させ、採点は90点以上をS、80～89点をA、70～79点をB、60～69点をCとし、60以上の場合に習得したと判定する。なお、大学院の講義を利用した選択必修科目については、レポート以外の課題の提出状況なども踏まえて総合的に評価し、採点は80点以上をA、65～79点をB、55～64点をCとし、55以上の場合に習得したと判定する。また、特別研究は、研究成果発表を審査し評価する。
㉑自己点検・評価の方法：	学校教育法第109条第1項に定める評価を実施する。 東三河4市（蒲郡、豊川、豊橋、田原）それぞれに置かれる企業の防災自治組織を構成機関に含む「東三河防災・減災連絡会」（2013年度発足）において、本課程全般の評価を受ける。また、東海圏の6国立大学でつくるコンソーシアムの人材育成・活用専門部会にて報告し、各大学の専門家より評価を受ける。
㉒修了者の状況に係る効果検証の方法：	修了者を招集し、聞き取りや修了者間での意見交換等を通じて、本課程の利用実態や課題、自社の防災対策への反映状況などを把握する。
㉓企業等の意見を取り入れる仕組み：	（教育課程の編成） 東三河4市（蒲郡、豊川、豊橋、田原）それぞれに置かれる企業の防災自治組織を構成機関に含む「東三河防災・減災連絡会」（2013年度発足）において、本課程の教育編成や各科目の内容、実施状況などについて意見を聞く機会を、本課程の実施前、実施中、実施後にそれぞれ設ける（年3回）。 （自己点検・評価） 東海圏の6国立大学でつくるコンソーシアムの人材育成・活用専門部会にて報告し、各大学の専門家より評価を受ける機会を設ける（年1回）。
㉔社会人が受講しやすい工夫：	企業等の意見を踏まえ、以下の工夫を行っている。 ・企業等が防災業務の一環として受講できるよう平日日中に開講している。 ・他の業務に支障が出ないよう授業が過度に集中しないよう配慮している。 ・頻繁に授業を受けにくることが困難な者がいることを想定し一部授業をeラーニングで行っている。
㉕ホームページ：	（URL） <a href="https://www.tut.ac.jp/">https://www.tut.ac.jp/</a> <a href="http://www.carm.tut.ac.jp/">http://www.carm.tut.ac.jp/</a>

事務担当者名：	白井育子	所属部署：	研究支援課センター支援係
連絡先：	（電話番号）0532-44-6568 （E-mail） <a href="mailto:kencen@office.tut.ac.jp">kencen@office.tut.ac.jp</a>		

\*パンフレット等の申請する課程の概要が掲載された資料を添付してください。

(様式2)

## 授業科目の概要について

学校名：	豊橋技術科学大学
課程名：	東三河防災カレッジ

要件該当授業時数：	65時間
要件該当授業時数／総授業時数：	51.18%

分類	科目名	配当年次	授業時数	企業等	双方向	実務家	実地	担当教員・実務家名	教員・実務家の所属
必修	防災基礎講座		5.5/5.5	○	○	○		齊藤大樹 名執 潔 穂苅耕介	豊橋技術科学大学建築・都市システム学系（実務家教員） 豊橋技術科学大学安全安心地域共創RC（実務家教員） 東三河防災・減災連絡会事務局／ 豊橋技術科学大学安全安心地域共創RC
必修	防災基礎講座 (E-ラーニング)		1.5/10.5			○		齊藤大樹 中澤祥二 松井智哉 林 和宏 加藤 茂 三浦均也 増田幸宏 松尾幸二郎 垣野義典	豊橋技術科学大学建築・都市システム学系（実務家教員） 豊橋技術科学大学建築・都市システム学系 豊橋技術科学大学建築・都市システム学系 豊橋技術科学大学建築・都市システム学系 豊橋技術科学大学建築・都市システム学系 豊橋技術科学大学建築・都市システム学系 豊橋技術科学大学建築・都市システム学系 芝浦工業大学システム理工学部 豊橋技術科学大学建築・都市システム学系 東京理科大学理工学部建築学科
必修	経営(事業)を まもる人材の育成講座		10/12	○	○	○		増田幸宏 細川栄一 宇野京子 小野高宏 穂苅耕介	芝浦工業大学システム理工学部 東京海上日動火災保険（株） 東京海上日動火災保険（株） 三菱商事インシュアランスリスクコンサルティング室 東三河防災・減災連絡会事務局／ 豊橋技術科学大学安全安心地域共創RC
必修	建物(施設)を まもる人材の育成講座		4/10			○		中澤祥二 松井智哉 齊藤大樹 松田達也 濱田政則	豊橋技術科学大学建築・都市システム学系 豊橋技術科学大学建築・都市システム学系 豊橋技術科学大学建築・都市システム学系（実務家教員） 豊橋技術科学大学建築・都市システム学系 アジア防災センター／早稲田大学

必修	生命(生活)を まもる人材の育成講座		14/14	○	○	○	○	花井詠子 永田宏和 杉木 直 本塚智貴	豊橋市防災危機管理課 NPO法人プラス・アーツ 豊橋技術科学大学建築・都市シ テム学系(実務家教員) 人と防災未来センター
必修	特別研究		30/30		○			各教員	豊橋技術科学大学建築・都市シ テム学系教員
小計:	6科目						82		時間
<p>「必修」科目と「選択必修」科目の総時間数が124時間以上を満足する時間数になるよう 上記の「必修」科目82時間に加え、下記の「選択必修」科目から合計42～45時間(最大)分の科目を選択 (選択例: 22.5×2科目、22.5×1科目+10.5×2科目、10.5×4科目)</p>									
選択必修	高度技術者論		22.5			○		斉藤大樹	豊橋技術科学大学建築・都市シ テム学系(実務家教員)
選択必修	構造解析論①		10.5					三浦均也	豊橋技術科学大学建築・都市シ テム学系
選択必修	構造解析論②		10.5			○		斉藤大樹	豊橋技術科学大学建築・都市シ テム学系(実務家教員)
選択必修	耐震構造設計論①		10.5					三浦均也	豊橋技術科学大学建築・都市シ テム学系
選択必修	耐震構造設計論②		10.5					中澤祥二	豊橋技術科学大学建築・都市シ テム学系
選択必修	鉄骨系構造設計論①		10.5					中澤祥二	豊橋技術科学大学建築・都市シ テム学系
選択必修	鉄骨系構造設計論②		10.5					松本幸大	豊橋技術科学大学建築・都市シ テム学系
選択必修	鉄筋コンクリート系 構造設計論①		10.5			○		斉藤大樹	豊橋技術科学大学建築・都市シ テム学系(実務家教員)
選択必修	鉄筋コンクリート系 構造設計論②		10.5					松井智哉	豊橋技術科学大学建築・都市シ テム学系
選択必修	リスクマネジメント論		10.5					中澤祥二	豊橋技術科学大学建築・都市シ テム学系
選択必修	水圏防災論		22.5					加藤 茂	豊橋技術科学大学建築・都市シ テム学系
選択必修	社会基盤マネジメント論		22.5			○		杉木 直	豊橋技術科学大学建築・都市シ テム学系(実務家教員)
選択必修	環境経済分析論		22.5					宮田 譲	豊橋技術科学大学建築・都市シ テム学系
選択必修	産業政策論		22.5					洪澤博幸	豊橋技術科学大学建築・都市シ テム学系
合計:	8～10(最大) 科目						124～127		時間

※要件該当授業時数は必修科目について記入しています。